

【検証】 1844 年の大贖罪日 10 月 22 日は、ユダヤの「カライ暦」から来ている

モーセの律法において、聖所の清め、すなわち、大いなる贖罪の日は、ユダヤ暦の 7 月 10 日に行われた（レビ 16：29～34）。その日に、大祭司は、全イスラエル人の罪の贖いをなし、彼らの罪を聖所から除き、出て来て、民を祝福した。そのように、われわれの大祭司キリストが現れて、罪と罪人を滅ぼし、地を清め、待望していた神の民に永遠の生命を与えるものと、人々は信じた。聖所の清めの時である大いなる贖罪の日の 7 月 10 日は、**1844 年の 10 月 22 日**にあたり、その日が主の再臨の時であると考えられた。
（各時代の争闘 下 P. 106、希望への光 P. 1788 より）

ユダヤ暦 Tishrei 5605 年

計算 クリア 保存・呼出 印刷

1844 年 = ユダヤ暦(Jewish Calendar) 5605 年
大贖罪日 = Tishrei or Tishri(ティシュリ) = 第七の月の 10 日

ユダヤ暦は紀元前 3761 年 10 月 7 日を紀元(創世紀元)とする
太陰太陽暦(日本の旧暦と同じく、月の満ち欠けを基準に月を決める方式)を祭儀暦に採用⇒**ユリウス暦**

併せて、日常生活においては、太陽暦(グレゴリオ暦)採用している(参照：下記、駐日イスラエル大使館カレンダー)。

ユダヤ暦	曜	→	グレゴリオ暦	ユリウス暦
Tishrei 01, 5605	Shab		Sep 14, 1844	Sep 02, 1844
Tishrei 02, 5605	Sun		Sep 15, 1844	Sep 03, 1844
Tishrei 03, 5605	Mon		Sep 16, 1844	Sep 04, 1844
Tishrei 04, 5605	Tue		Sep 17, 1844	Sep 05, 1844
Tishrei 05, 5605	Wed		Sep 18, 1844	Sep 06, 1844
Tishrei 06, 5605	Thu		Sep 19, 1844	Sep 07, 1844
Tishrei 07, 5605	Fri		Sep 20, 1844	Sep 08, 1844
Tishrei 08, 5605	Shab		Sep 21, 1844	Sep 09, 1844
Tishrei 09, 5605	Sun		Sep 22, 1844	Sep 10, 1844
Tishrei 10, 5605	Mon		Sep 23, 1844	Sep 11, 1844
Tishrei 11, 5605	Tue		Sep 24, 1844	Sep 12, 1844
Tishrei 12, 5605	Wed		Sep 25, 1844	Sep 13, 1844
Tishrei 13, 5605	Thu		Sep 26, 1844	Sep 14, 1844

疑問: 1844 年 9 月 11/23 日となり、10 月 22 日ではない???
 10 月 22 日 = 第八の月(ヘシュアワン: 10/14~11/11) ≠ 第七の月(ティシュリ)
 → 第七の月 = 9/2~10/13 で 10 月 22 日はティシュリの月ではない。

参考: **keisan** CASIO COMPUTER CO., LTD. CASIO (ユダヤ暦から西暦変換)

Holidays and Observances:

Mar 22 Nisan 14 Passover Eve	Sep 15 Tishri 14 Sukkot Eve
Mar 23 Nisan 15 Passover (Day 1)	Sep 16 Tishri 15 Sukkot (Day 1)
Mar 24 Nisan 16 Passover (Day 2)	Sep 17 Tishri 16 Sukkot (Day 2)
Mar 25 Nisan 17 Passover (Day 3)	Sep 18 Tishri 17 Sukkot (Day 3)
Mar 26 Nisan 18 Passover (Day 4)	Sep 19 Tishri 18 Sukkot (Day 4)
Mar 27 Nisan 19 Passover (Day 5)	Sep 20 Tishri 19 Sukkot (Day 5)
Mar 28 Nisan 20 Passover (Day 6)	Sep 21 Tishri 20 Sukkot (Day 6)
Mar 29 Nisan 21 Passover (Day 7)	Sep 22 Tishri 21 Sukkot (Day 7) / Hoshanah Rabah
May 5 Iyar 28 Jerusalem Day	Sep 23 Tishri 22 Shemini Atzeret / Simchat Torah
May 11 Sivan 5 Shavuot Eve	Nov 24 Kislev 25 Hanukkah (Day 1)
May 12 Sivan 6 Shavuot	Nov 25 Kislev 26 Hanukkah (Day 2)
Jul 12 Av 8 Tisha B'Av Eve	Nov 26 Kislev 27 Hanukkah (Day 3)
Jul 13 Av 9 Tisha B'Av	Nov 27 Kislev 28 Hanukkah (Day 4)
Sep 1 Elul 29 Rosh Hashana Eve	Nov 28 Kislev 29 Hanukkah (Day 5)
Sep 2 Tishri 1 Rosh Hashana	Nov 29 Tevet 1 Hanukkah (Day 6)
Sep 3 Tishri 2 Rosh Hashana (Day 2)	Nov 30 Tevet 2 Hanukkah (Day 7)
Sep 10 Tishri 9 Yom Kippur Eve	Dec 1 Tevet 3 Hanukkah (Day 8)
Sep 11 Tishri 10 Yom Kippur	

Add more holidays/observances: Major Jewish | Common observances | Seasons **Select**

- 【参考】 2023 年祝祭日カレンダー 駐日イスラエル大使館
 → カレンダーはグレゴリオ暦で表示している
- ◆ ユダヤ新年: 9 月 16 日(土曜日)
 - ユリウス暦 2023 年 9 月 3 日
 - ユダヤ暦 5784 年第七の月(ティシュリ) 1 日
 - ◆ ヨム・キップール(贖罪の日): 9 月 25 日(月曜日)
 - ユリウス暦 2023 年 9 月 12 日
 - ユダヤ暦 5784 年第七の月(ティシュリ) 10 日

日本の祝日
 イスラエルの祝日

令和 5 年 / 2023 年 駐日 イスラエル 大使館 閉館 予定 日 - 一覧表

祝日の名称	日付	曜日
ユダヤ新年	9月16日	土曜日
ユダヤ新年	9月17日	日曜日
敬老の日	9月18日	月曜日
秋分の日	9月23日	土曜日
ヨム・キップール(贖罪の日)	9月25日	月曜日
スコット(飯炊の祭)	9月30日	土曜日
スコット(飯炊の祭)	10月1日	日曜日
シムハット・トーラー(律法の感謝祭)	10月7日	土曜日
シムハット・トーラー(律法の感謝祭)	10月8日	日曜日
スポーツの日	10月9日	月曜日
文化の日	11月3日	金曜日
勤労感謝の日	11月23日	木曜日
年末休み	12月29日	金曜日
年末休み	12月30日	土曜日
年末休み	12月31日	日曜日

出典(図表): Calendar for Year 1844 (Israel) [timeanddate](https://timeanddate.com)
 駐日イスラエル大使館 2023 年祝祭日カレンダー(一部を表示、右上図)

Q. ウィリアム・ミラーが 1844 年の贖罪の日として 10 月 22 日の正確な日付にどのように到達したかを理解するのに役立つ資料を教えてくださいませんか?
A. ウィリアム・ミラーは 10 月 22 日の日付を説教したり、贖罪の日に期待を寄せたりはしなかった。彼がしたことは、聖書の年表と歴史的な情報源から、2300 日の預言の終わりが、1843 年の春と 1844 年の同時期の間どこかで来ることを理解したと言っただけでした。

参考: ellenwhite.org/correspondence/186169

【解説】10月22日の由来について

ユダヤ歴には現在、一般的に使用されている①Rabbinic calendar（ラビ暦）とは別に、②Karaites calendar（カライ暦）がある。

Karaites calendar は、カライ派ユダヤ教 Karaite Judaism の宗派固有の暦です。カライ派ユダヤ教は、伝統的なラビ派ユダヤ教の律法解釈に対抗する宗派で、タナフ（ヘブライ語聖書＝モーセ五書）のみを権威と認めるユダヤ教の一派です。

Karaites calendar は、太陽暦と月の満ち欠けに基づいています。それは、年を12の月に分け、各月の長さを太陽と月の動きに基づいて決定します。一方、伝統的なラビ派ユダヤ教の暦であるヘブライ暦は、主に月の満ち欠けに基づいています。

カライ派ユダヤ教徒は、この Karaites calendar を使用して祝日や宗教的なイベントを決定しています。一方、伝統的なラビ派ユダヤ教徒は、ヘブライ暦を使用してこれらのイベントを決定しています。

1844年の大贖罪日は、Rabbinic 暦では、ユリウス暦で9月11日、グレゴリオ暦で同23日となりますが、Karaites 暦では10月22日になります（ただし、そのエビデンスは不明：谷口）。

Rabbi 暦は分かり易いように今の太陽暦に合わせて修正されましたが、これに反発したグループは、Karaites 暦を踏襲しました。Karaites 暦は、元々の収穫期に合わせたユダヤ歴を忠実に踏襲したものでした。再臨信徒たちは、これらのカレンダーの成立由来を考慮し、あえて一般的ではなかった Karaites 暦を採用しました。結果、10月22日を提唱したのが、S. S. Snow でした。

なお、SDA バイブルコメンタリーの第11巻（Encyclopedia 1996年版≠旧版）のP. 620、Snow（→Samuel S. Snow）の項では、Karaites 暦を採用したことが明記（下記参照）されている。



To establish the year in which this would take place, Snow calculated that the decree "to restore and build Jerusalem" (Daniel 9:25) that marked the beginning of the period of 2,300 days (symbolic years) given in Daniel 8:14 would have been issued in the latter part of the year 457 B.C. The 2,300-year period thus would end in late 1844, when the Day of Atonement (Yom Kippur) occurred that year. That is when the "cleansing of the sanctuary" referred to in Daniel 8:14, was to take place. With Miller and the Advent movement in general, Snow believed that "the cleansing of the sanctuary" would be accomplished by the second coming of Christ—that is how Christ as the antitype would fulfill what the high priest's work on the Day of Atonement typified. Based on the calendar of the Karaite Jews, Snow concluded that the Day of Atonement in 1844 would fall on October 22.⁷

Based on the calendar of the Karaite Jews, Snow concluded that the Day of Atonement in 1844 would fall on October 22.

カライ派ユダヤ人カレンダーに基づいて、スノーは、1844年の贖罪の日は10月22日になると結論づけた。

出典：<https://encyclopedia.adventist.org/article?id=9A6O&highlight=Karaite#fn7>

【参考】カライ派 Karaite Judaism, Karaism, קראית

モーセ五書のみを権威と認めるユダヤ教の一派（最初はアナニズムと呼ばれていたこの宗派は、後にカライズムと呼ばれるようになった）で、口伝律法を納めたタルムード（ヘブライ語: תלמוד Talmud、「研究」の意）を認める「ラビ・ユダヤ教」とは異なり、タルムードは認めない。一時、大勢力になった（ユダヤ人の40%）が、余りにも厳格な律法主義のため、広く民衆の支持を得ることができなかつたため急速に衰退した（今では、ほとんどのラビ系ユダヤ人は彼らの存在さえ知らない）。

カライ派は、メソポタミアのバビロニアで、アナン・ベン・デヴィド（Anan ben David AD715～795年）によって創られた派で、中東やエジプト、そしてクリミア半島などの地域に広がりました。

カライ派の名称は、ヘブライ語の「カライ」という言葉に由来し、聖書を「読む人」、「聖書の人」、「書物の人」という意味を持っています。

様々なラビたちの教えをまとめ、5世紀頃に編集された『タルムード』を偏重する靈性に縛られていた人たちが、より根源的で本質的な靈性を求め、信仰の源である聖書に帰ろうと教えたアナン・ベン・デヴィドに追随したとされている。

カライ派の人々は、ユダヤ人にとっての聖書である旧約聖書以外の書、つまり「タルムード」や「カバラ」（ユダヤ教の伝統に基づいた創造論、終末論、メシア論を伴う神秘主義思想）そして「ミツヴオット」（神がシナイでモーセを通してイスラエルと人類に賜った恵みの戒め）などを一切認めませんでした。彼らは聖書が信仰者の在り方を規定するのに唯一で十分な書物であると信じ、ラビの解釈を通さなくても、個人の良心に基づいて解釈できるものと考えていました。

カライ派の祈りは、伝統的なユダヤ教の祈りとは異なり、聖書から引用した文章が主体となっています。

また、カライ派のシナゴークには、イメージを排除した簡素な装飾が施されています。

アフリカの地中海沿岸地方や黒海沿岸まで行くほど、宣教にも熱心で、特にトルコ地方の人々に大いに受け入れられた。

現代のカライ派コミュニティは、イスラエル、アメリカ合衆国、カナダ、エジプト、ウクライナなどに存在しています。現在もカライ派の信仰は、伝統的なユダヤ教と比較して、より原理主義的であり、聖書の規定に厳格に従って生活することを求めている。

出典：[カライ派ユダヤ人について](#) 他